

「A」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 後の世のこと心に忘れず、仏の道うとからぬ、こころにくし。(徒然草)

(訳) 来世のことを心に忘れることなく、仏道に無関心でない人は、「  
①奥ゆかしい ②心が穏やかだ ③憎らしい ④好きになれない

2 何とにかあらむ、かきくらして涙こぼる。(蜻蛉日記)

(訳) (手紙を書いていると)何ということであろうか、「て涙がこぼれる」。  
①頭が真っ白になっ ②心が傷ついてしまっ ③感動で心が満たされ ④悲しみが心を暗くし

3 行きずりの人の宣はむことをたのむこそをこなれ。(今昔物語集)

(訳) 行きずりの人がおっしゃるようなことをあてにするのは「  
①滑稽だ ②愚かだ ③迷惑だ ④気がかりだ

4 こと人々の(歌)もありけれど、さかしき(歌)もなかるべし。(土佐日記)

(訳) 違う人々の歌もあったが、「さかしき」歌もないだろう。  
①賢明な ②気が利いている ③こざかしい ④当世風の

5 なほしるべせよ。我はすきずきしき心などなき人ぞ。(源氏物語)

(訳) やはり(姫君の部屋に)案内しておくれ。私は「すきずきしき心」心などない人間だ。  
①興ざめな ②風流めいた ③不純な ④好色めいた

6 心ことに設けの物などいたはりてしたまへ。(宇津保物語)

(訳) 心も格別に引き出物などを「いたはりて」て用意してください。  
①作っ ②購入し ③骨を折っ ④心配し

7 乞食、路のほとりに多く、憂へ悲しむ声耳に満てり。(方丈記)

(訳) 物乞いをする人が、道ばたに多くいて、「憂へ悲しむ声」悲しむ声が至る所で聞こえる。  
①訴え ②心を痛め ③叫び ④世をはかなみ

8 あたら夜の月と花とを同じくはあはれ知れらむ人に見せばや(後撰和歌集)

(訳) なんとも「あた」夜の月と花とをどうせなら情趣を解しているような人に見せたいものだ。  
①もったいない ②美しい ③趣深い ④すっきりした

「B」次の文の(訳)の「」に入る語句を答えよ。

9 日ごろ月ごろしるきことありてなやみわたるが、おこたりぬるもうれし。(枕草子)

(訳) 何日も何か月もはつきりした症状があつてずっと病をわずらっていたのが、「おこたりぬ」たのもうれしい。  
9 「」

10 舟の中にや老いをばかこつらむ。(紫式部日記)

(訳) (大藏卿は)舟の中で今老いたわが身に「こつら」ているだろうか。  
10 「」

11 身にやむごとなく思ふ人のなやむを聞きて、いかにいかにとおぼつかなきことを嘆くに、おこたりたる由、消息聞くもいとうれし。(枕草子)

(訳) わが身にとって大切に思う人が「なやむ」のを聞いて、どんなかどんなかと心配なことを嘆くときに、病気がよくなったということを、伝え聞くのもとてもうれしい。  
11 「」

12 これを思ふに、女なりともなほ寝所などはしたためてあるべきなり。(今昔物語集)

(訳) これを思うと、女であってもやはり寝所などは(危険に備えて)「したためて」ているべきである。  
12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語383訂版 P192～P203

- 1 「①」
- 2 「④」
- 3 「②」
- 4 「②」
- 5 「④」
- 6 「③」
- 7 「①」
- 8 「①」
- 9 「病気がよくなつ」
- 10 「不平を言つ」
- 11 「病気で苦しむ」
- 12 「用意し」